

ある むぜお

府中市郷土の森博物館だより

al museo

2024 年 6 月 20 日

No.148



およそ 100 年前のケヤキ並木（1919 年刊行『東京府史蹟』より）

もくじ

- 1-2 国天然記念物指定 100 年 馬場大門のケヤキ並木
その①…100 年前のケヤキ並木
- 3 最近の発掘調査
武蔵府中熊野神社古墳で新たに土取り穴を発見？
- 4-5 NOTE
ある史跡標柱の履歴
- 6 展示会案内 市制施行 70 周年記念
特別展 鳥満員！ 昆虫レストラン
- 7 展示会案内
復元建物展示 カイコとくらしのむかしの農家
- 8 series 祈願と御利益
①奉納は御利益への近道？
- 9 令和 5 年度寄贈・寄託資料一覧
利用状況 新刊案内
- 10 近代プラネタリウム誕生 100 周年！
プラネタリウムについて知ろう！
⑤近代プラネタリウムより前の「プラネタリウム」

国天然記念物指定 100 年 馬場大門のケヤキ並木

おおくにたまじんじや
大國魂神社の参道であるケヤキ並木は、1924 年（大正 13）に国の天然記念物に指定されました。今年（^{てんねん きねんぶつ}）はちょうど 100 周年です。この機会に、博物館では 12 月から 1 月にかけて、企画展の開催を予定しています。本誌でもケヤキ並木にまつわる話題を 4 回シリーズでお届けします。

その①…100 年前のケヤキ並木

初回は、天然記念物に指定された頃のケヤキ並木です。上の写真は、指定される 5 年前に刊行された『東京府史蹟』という本に掲載されたものです。今は失われた巨木の向こうに、ケヤキの樹列（^{じゅれつ}）が見えます。

近代プラネタリウム誕生 100 周年！

プラネタリウムについて知ろう！



⑤近代プラネタリウムより前の「プラネタリウム」

国際プラネタリウム協会では 2023 年から 2025 年にかけて、近代プラネタリウム誕生 100 周年を祝う記念事業を行っていますので、本誌でも昨年度に引き続き 100 周年記念連載をお送りします！

ところで 100 周年なのは、ドームの内側に星を映し出す方式の「近代」プラネタリウムであり、「プラネタリウム」という呼び名は、その前から存在しています。

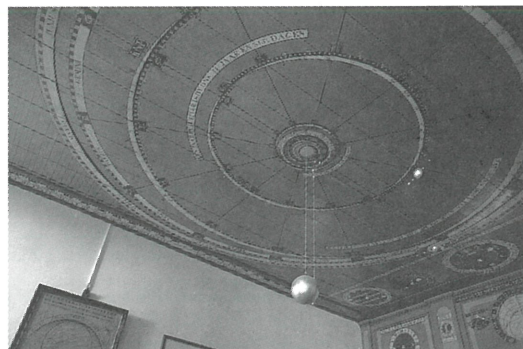
さらに、この呼び名が生まれる前から、人は星々の動きを再現しようと様々な道具を生み出してきました。紀元前にも、星や星座の位置を宇宙の外側から見て地球儀のように描いた「天球儀」がありました。紀元前 2 世紀には、正確な歯車を組み合わせ、太陽・月・惑星の動きを表す装置「天文時計」が作られています。18 世紀頃になると、惑星の精密な動きを視覚的に見せる模型、惑星運行儀が作られました。

その中で「プラネタリウム」という呼び名が登場します。ただ、そのほとんどは記録のみで現存していません。1364 年、イタリアでドンディが作った天文時計「アストラリウム」は「プラネタリウム」とも呼ばれ、その精巧さが賞賛されました。フランスのデサグリエは 1734 年の著作の中で、彼が製作した惑星運行儀を「プラネタリウム」と呼んでいます。従来の惑星運行儀に改良を加えたため、独自の名を付けたようです。

それから 40 年後の 1774 年 5 月 8 日未明、水星・金星・火星・木星・月が、東の空の近い位置に集まって見える、惑星会合がありました。当時でも天文学者は「珍しいものの、それぞれの惑星の位置関係による、単なる見かけ上の現象」と分かっていましたが、世間では「この世が終わる」という荒唐無稽な噂が流れ、人々は恐れ慄きました。

オランダ人のアイジンガーは羊毛梳き職人ながら、独学で数学と天文学を究めたアマチュア天文学者で、このような社会の混乱を見て心を痛めていました。「知識のない一般市民でも、本当の宇宙の姿を一目で理解できるようにしたい」と決意し、仕事の合間を縫って 7 年かけ、自宅の居間の天井に巨大な惑星運行儀を手作りで完成させました。彼は、天井を見上げれば“今この瞬間”の正確な惑星の位置が一目で分かり、色形も美しいこの装置を「惑星 (Planet) を見る部屋 (arium)」という意味で「プラネタリウム」と名付けます。そして町の人々を招き「惑星会合は普通に起こることで、この世の終わりにはならない」と自ら解説して安心させ、正しい科学知識を多くの人に広めたのです。アイジンガーのプラネタリウムはやがて自宅ごと国に買い上げられて王立博物館となりました。丁寧な管理が続けられ、今日も惑星の位置を正確に示し続けています。これが、現存する最古の「プラネタリウム」と名の付く施設であり、昨年、その技術と創造性が認められ、世界文化遺産に登録されました。

当館のプラネタリウムも、皆さんが星や宇宙の美しさを楽しみながら、科学的知識にも親しんでもらえるように日々工夫が続けています。アイジンガーの精神は、今も私たちの中に脈々と受け継がれているのです。(相澤南美)



アイジンガープラネタリウムを見上げた様子 ©Jean Housen